

## 令和3年度 第2回唐丹公民館運営審議会の開催結果について

- 1 開催日程 令和4年2月17日(木) 13時30分～14時30分
- 2 開催場所 釜石市立唐丹公民館 ホール
- 3 参加者 唐丹公民館運営審議委員  
上村 年恵 委員長、柏崎 裕之 副委員長、八木 稔和 委員、  
河東 智子 委員、木村 京子 委員、川原 清文 委員  
欠席：佐久間 定樹 委員  
市民生活部まちづくり課  
平野 敏也 課長、佐々木 薫 主幹  
唐丹公民館  
千菅 英理子 館長、山口 政義 主任

### 4 協議内容と結果

- (1) 令和3年度釜石市立唐丹公民館の運営方針について 結果：承認
- (2) 令和3年度釜石市立唐丹公民館の事業計画について 結果：承認

### 5 議事録

課長： 新型コロナウイルスの感染が岩手県で拡大している。予防するには、ワクチンの接種や新しい生活様式の実践が大事だと考えている。公民館活動については、来年度以降はコロナウイルスと上手につき合っていく事が大事だと考えている。

委員： 来年度から、唐丹小学校の教育課程の中で、農業体験事業を行うという形で進めている。

委員： 良いことだと思う。漁協婦人部が料理などで小学校に関わっているが、鮭の不漁でなかなかできない。そのようななかで農業体験ができるのは良いことだ。

課長： これまで農業体験は釜石・平田公民館と共催で実施していた。実施日が市内の小学校の運動会と重なり、参加できないような状況だった。

館長： 来年度は、平日に学校向けを行い、休日に一般向けを行いたいと考えている。土日だから出てこれるという人もいる。

課長： 市内8地区でも田植え体験をしているのは唐丹だけなので是非今後もお願いしたい。

委員： 農家の方からの意見としては、機械化で今ではこういった形で行なっていない。昔ながらの一粒一粒大事にしてるといのがわかればいいと思う。教える立場の農家も、こういった昔ながらの農業を経験したことない人も増えていくと思う。

館長： 農家組合や田んぼの提供者の協力、地域の皆さんのおかげで成り立つ事業だ。続けていきたいと思う。

委員： 唐丹すぽこんクラブについて教えてもらいたい

職員： 現在の活動としては、体育協会の一員でもある佐久間さんが唐丹すぽこんクラブのメンバーで、各地区の高齢者が集まる健康教室に講師として出向いている。公民館事業の中にもスカットボール大会などは共催として行なっている。唐丹地域内でのイベントの主催共催協力などで関わっている。

委員： 唐丹の方々の組織ということで理解した。

課長： もともと地域総合型スポーツクラブとして出来た。スポ少から高齢者までを対象としている。地域で体育指導員や健康教室を行なう担い手を育成している。地域総合型スポーツクラブは釜石市内に2つしかない。もう一つはシーウェーブスだ。地域では唐丹にしかない。唐丹地域会議から唐丹すぽこんクラブに助成をしている。なかなか若い人で、生活を成り立たせた上でそういった活動をしている母体が市にはないので、体育協会も含め行なっているのはすばらしいと思っている。

委員： この報告の対象ではないが、小白浜グラウンドに遊具を設置する事業があったと思う。小学校の教員の中ではかなり期待値が高い。学習生活課などで学ぶ場として活用させていただきたいと考えている。工事の進捗や今後の見通しについて伺いたい。

課長： コミュニティ助成事業の中で実施している。約1,000万円で遊具の整備をしている。この遊具はユニバーサル遊具といって、誰でもいつでもどこでも遊べるものだ。もう工事自体は終わっている。コロナ禍だがオープニングイベントについて協議している。また、グラウンド全体の計画や土が柔らかいなどの問題があり、今調整をしている。

委員： 子供たちもだいぶ期待をしているみたいだ。先日子供たちが行ったみたいだが、まだ使えなくて残念がっていた。

課長： 来年度からコミュニティスクール、地域学校協議会が始まる。唐丹はセンターと学校のつながりが他の地区に比べて強いと思っている。  
コミュニティスクールの中には他市町村では公民館長などが入っている。釜石では釜石にしかない応援センター長を入れている。地域と学校をつなぐ役割が重要ということだ。少子高齢化が進む中で、学校の運営に地域が関わっていく必要がある。今後応援センターの役割が重要になってくる。